

第 1 回 出雲市新たな観光財源検討委員会

令和 7 年（2025） 7 月 3 0 日（水）

1. 新たな観光財源の必要性について

(1)「出雲市観光基本計画」について

令和7年3月に策定した「出雲市観光基本計画」では、安定的な財源確保の検討等について取り組むことを掲げています（80頁）。

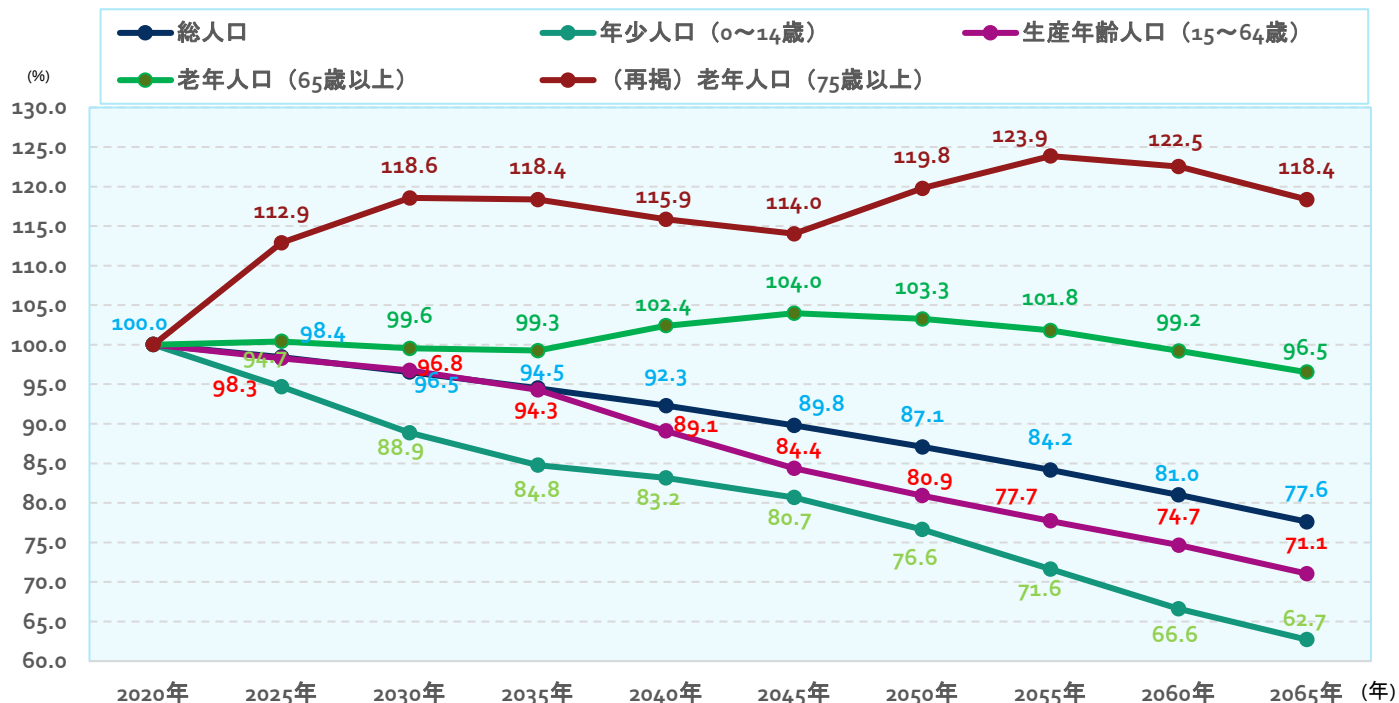
本検討委員会では、この検討を具体的に行っていきます。

そこで、前提となる「出雲市観光基本計画」の中から、本市の観光を取り巻く状況や現状分析について説明します。

①なぜ観光振興に取り組むのか？

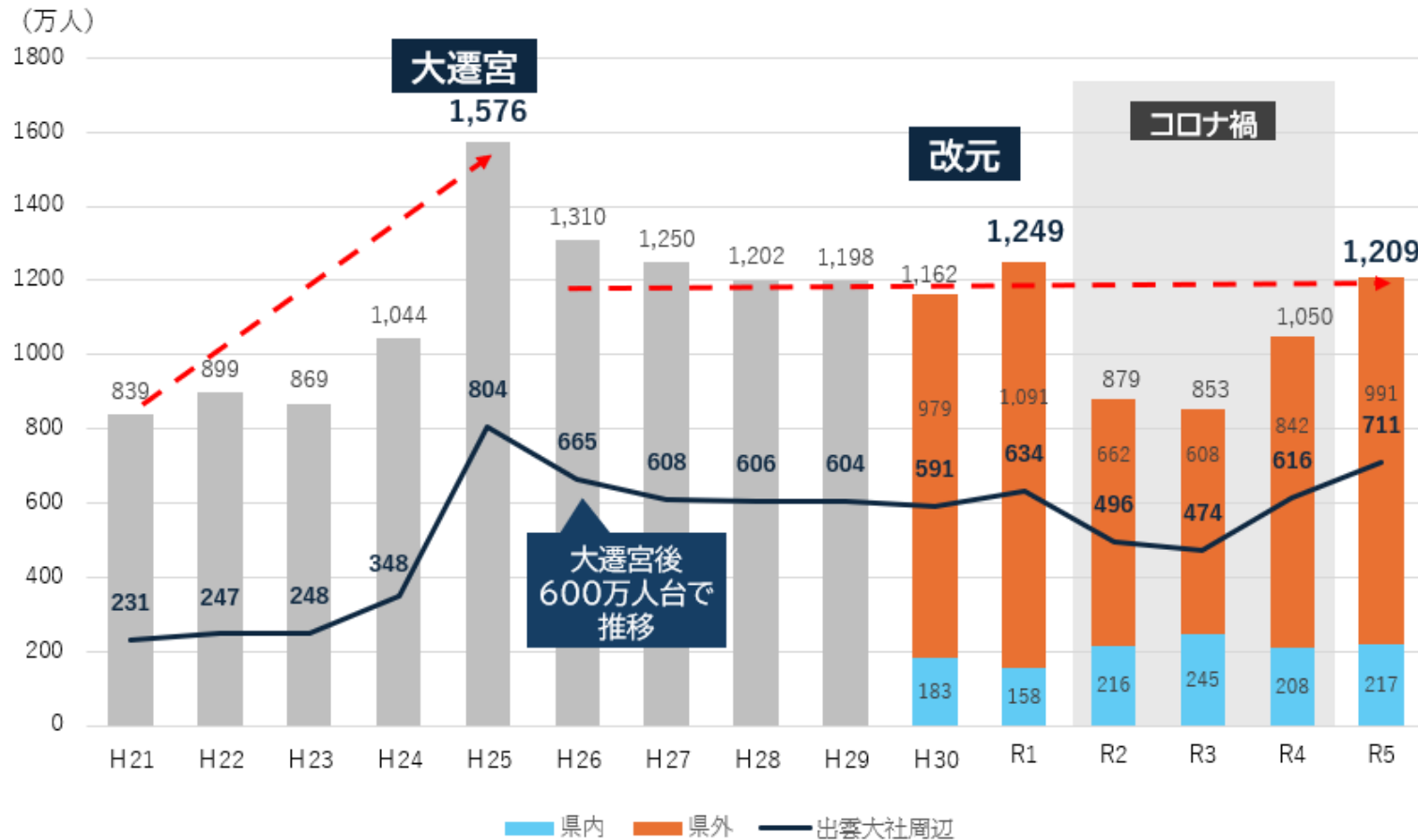
観光産業は、人口減少・少子高齢化が進展する中、国内外からの交流人口と旅行消費の拡大による経済効果は地方創生の鍵であり、観光地としてのブランド力を有する出雲市にとっても、極めて重要な成長産業です。（6頁）

将来人口推計における年齢区分別人口の推移 ※



※出雲市総合計画評価検討会議及び出雲市デジタル田園都市構想
総合戦略推進会議 第2回会議資料5「出雲市の将来人口推計について」
から作成

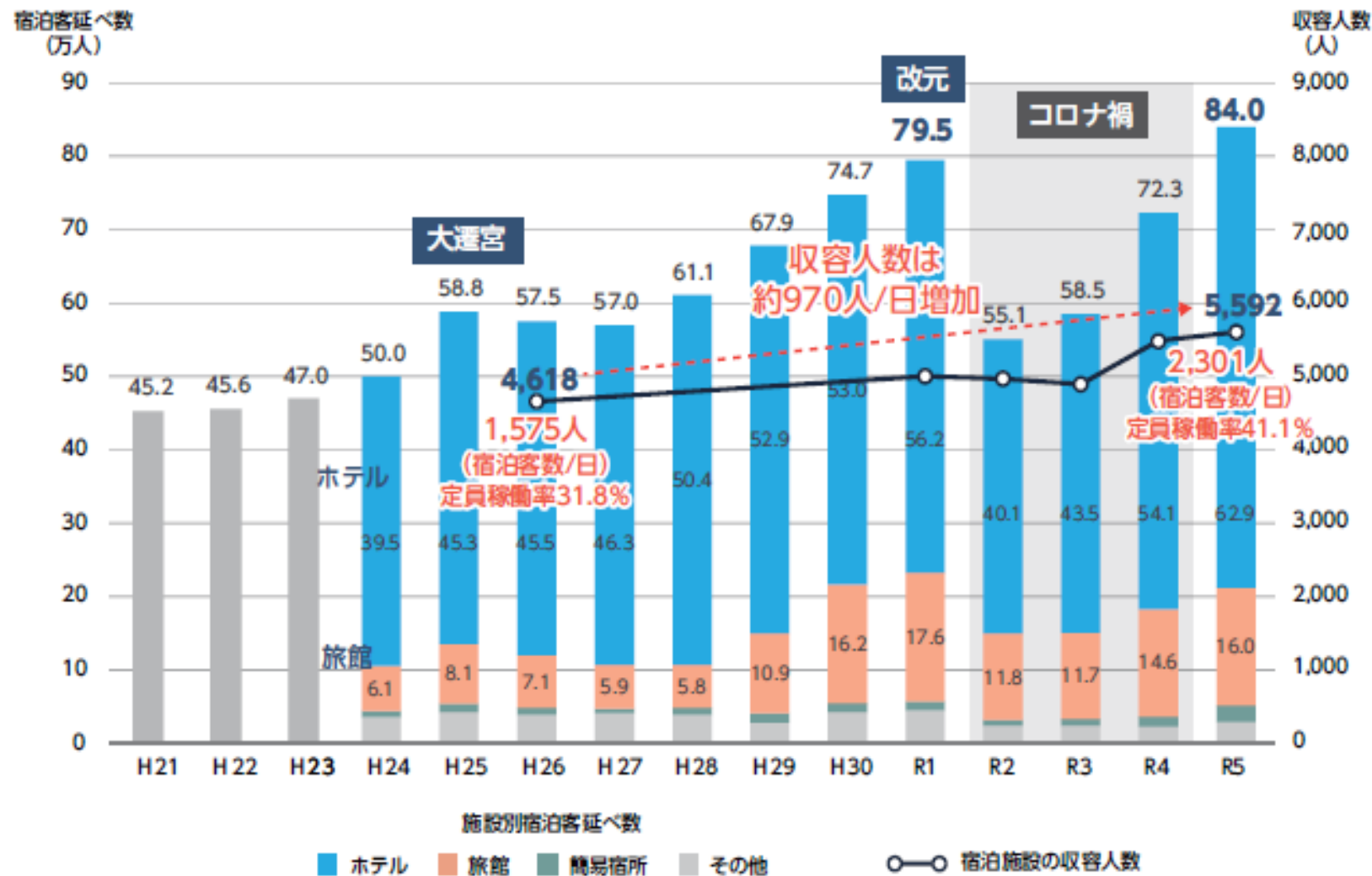
②出雲市の観光入込客数の推移



出雲大社の平成の大遷宮「本殿遷座祭」が行われた平成25年(2013)に大幅に増加し、以降、コロナ禍を除き1,100万人以上で推移している。コロナ禍により減少したものの、令和5年(2023)には令和元年(2019)と同程度まで回復しています。

出雲大社周辺入込客数は大遷宮以降600万人台で推移し、令和5年(2023)は711万人と平成25年(2013)に次ぐ入込となりました。(20頁)

③観光宿泊客延べ数・宿泊施設の収容人数の推移

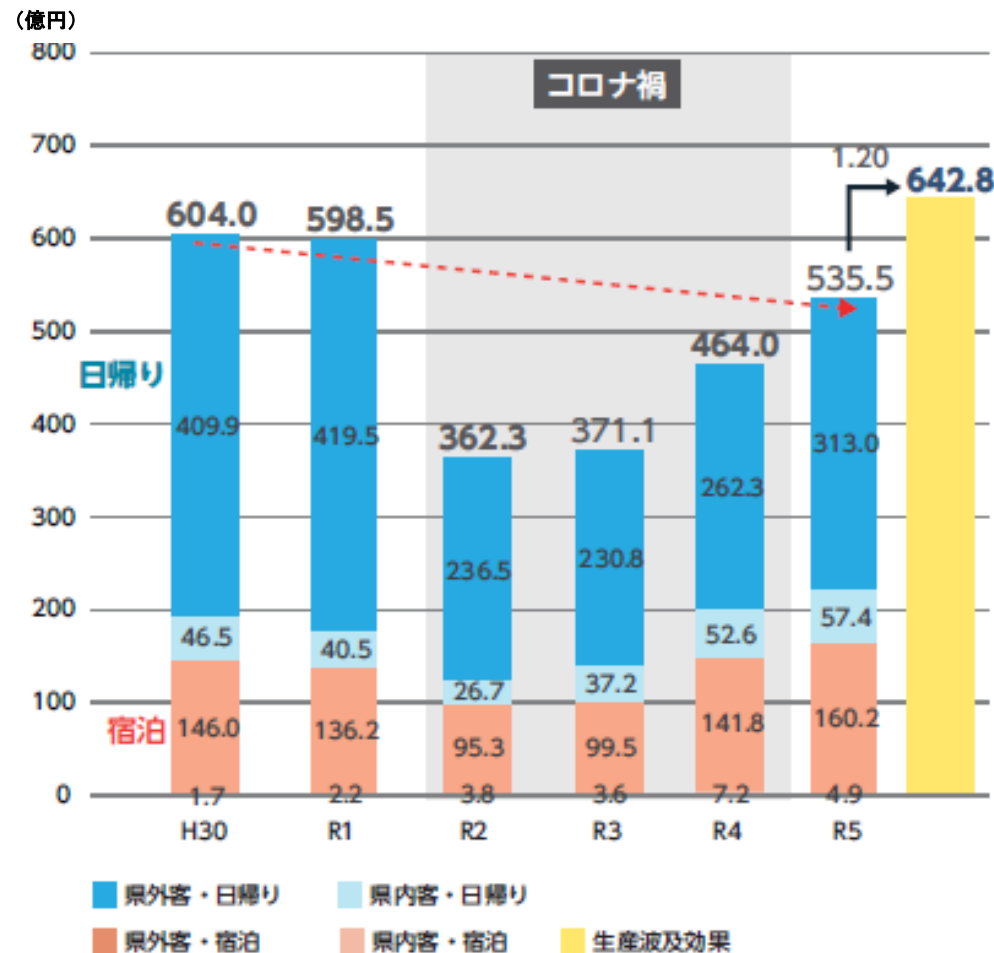


大震災以降、主にホテルや旅館などの客室数の増加に伴い、宿泊客延べ数は着実に増加しています。

令和5年(2023)には過去最高の84万人となりましたが、新規立地にとまなう収容人数の増加量を考慮すると、既存施設における宿泊客数の伸びは小さいと考えられ、新たな需要を創出できていない可能性があります。(20頁)

④観光消費額・生産波及効果

観光消費額・生産波及効果の推移



日帰り消費額単価

全国
(観光・レクリエーション目的)

項目	円/人回
交通費	5,464
宿泊費	—
飲食費	2,802
買物代	4,438
その他※	3,778
合計	16,483

※娯楽サービス、参加費ほか

出雲市

項目	円/人回
交通費	879
宿泊費	—
飲食費	1,661
土産代	1,313
その他※	682
合計	4,535

※入場料、その他

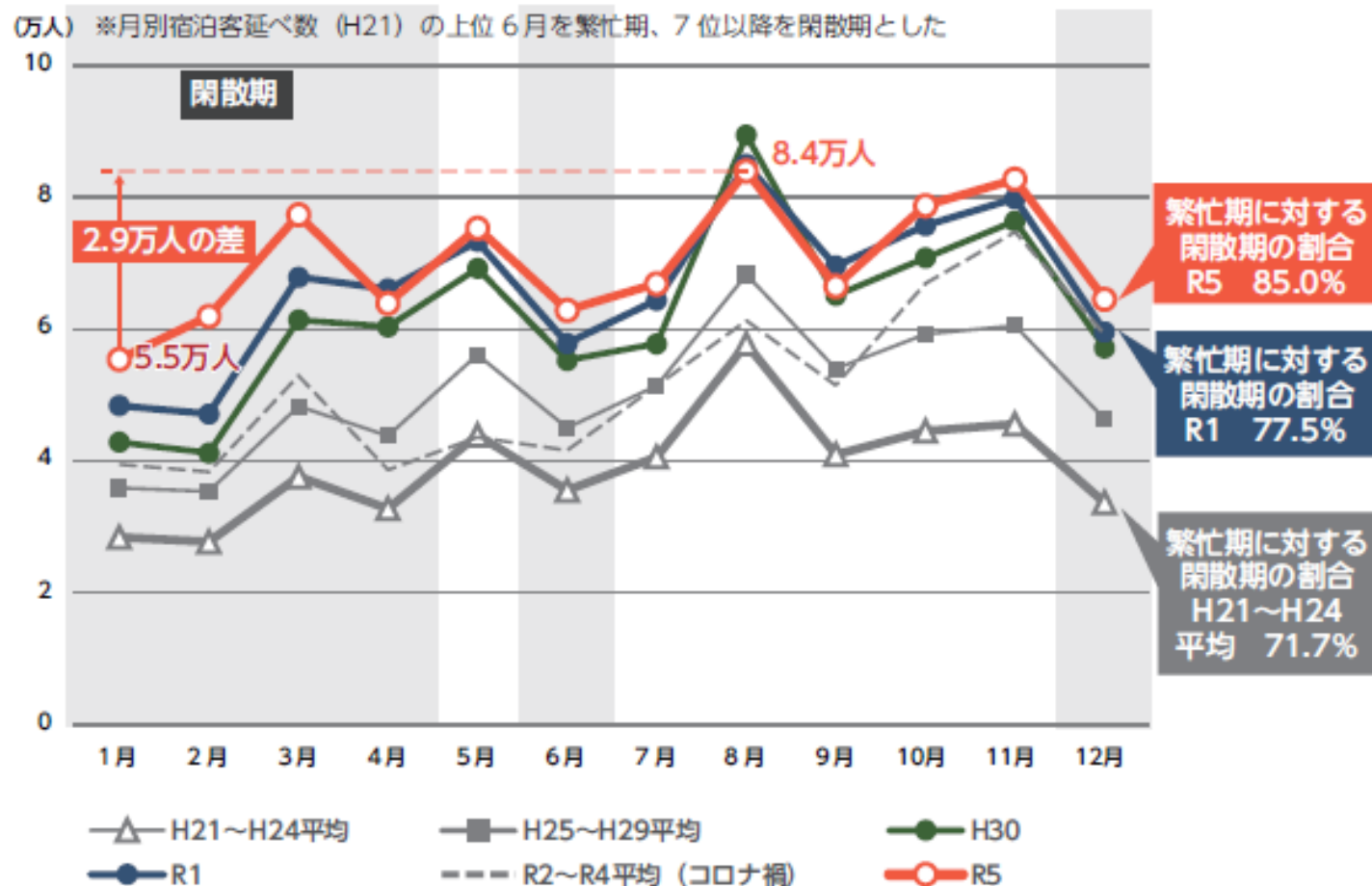
観光消費額(出雲市来訪者の県内消費額)は平成30年(2018)以降減少傾向にあり、コロナ禍を除くと500～600億円台で推移しています。

生産波及効果は約1.2倍となっており、国の約1.9倍(令和元年(2019))と比較すると、地域の関連産業との連携を強めるなど拡大の余地があります。

また、消費額単価も、全国平均と比較すると金額規模が小さく、消費拡大の余地があります。(21頁)

⑤ 繁閑差

出雲市月別宿泊客延べ数（全体）

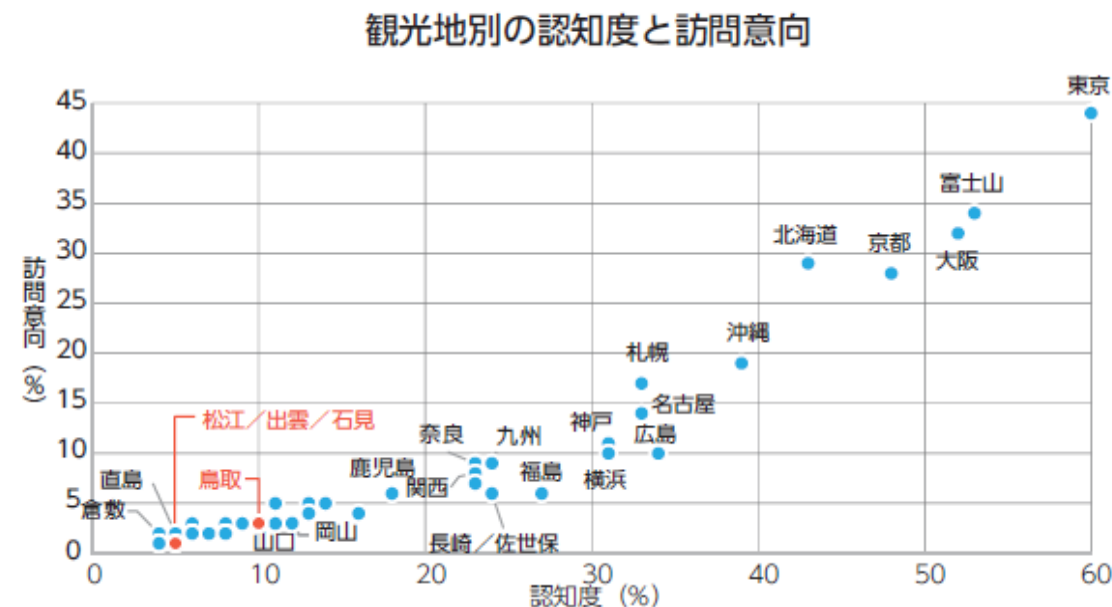
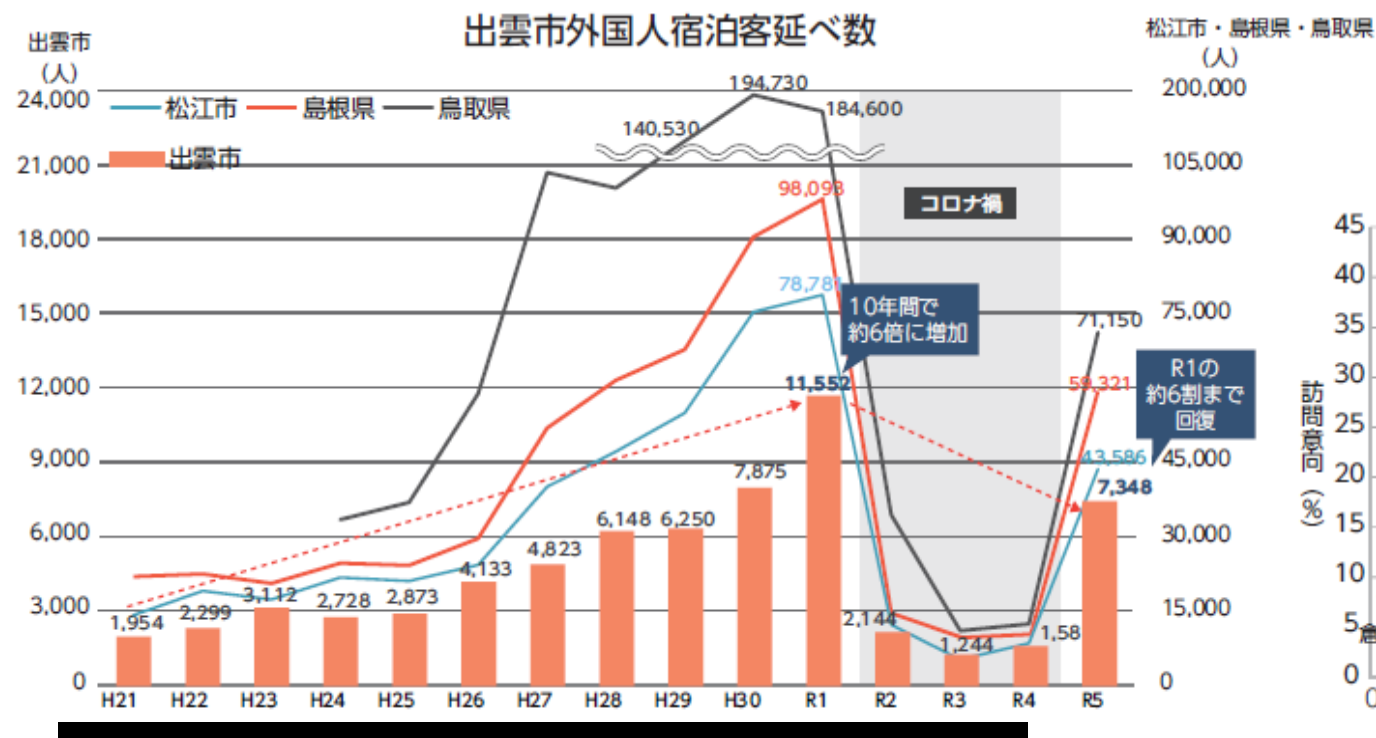


月別宿泊客延べ数における繁忙期（年内の上位6か月）と閑散期（同下位）を比較すると、繁閑差は減少傾向にあります。

しかしながら、令和5年（2023）においても最多月（8月）と最少月（1月）の差が2.9万人あるなど、更なるオフシーズン対策が必要です。（21頁）

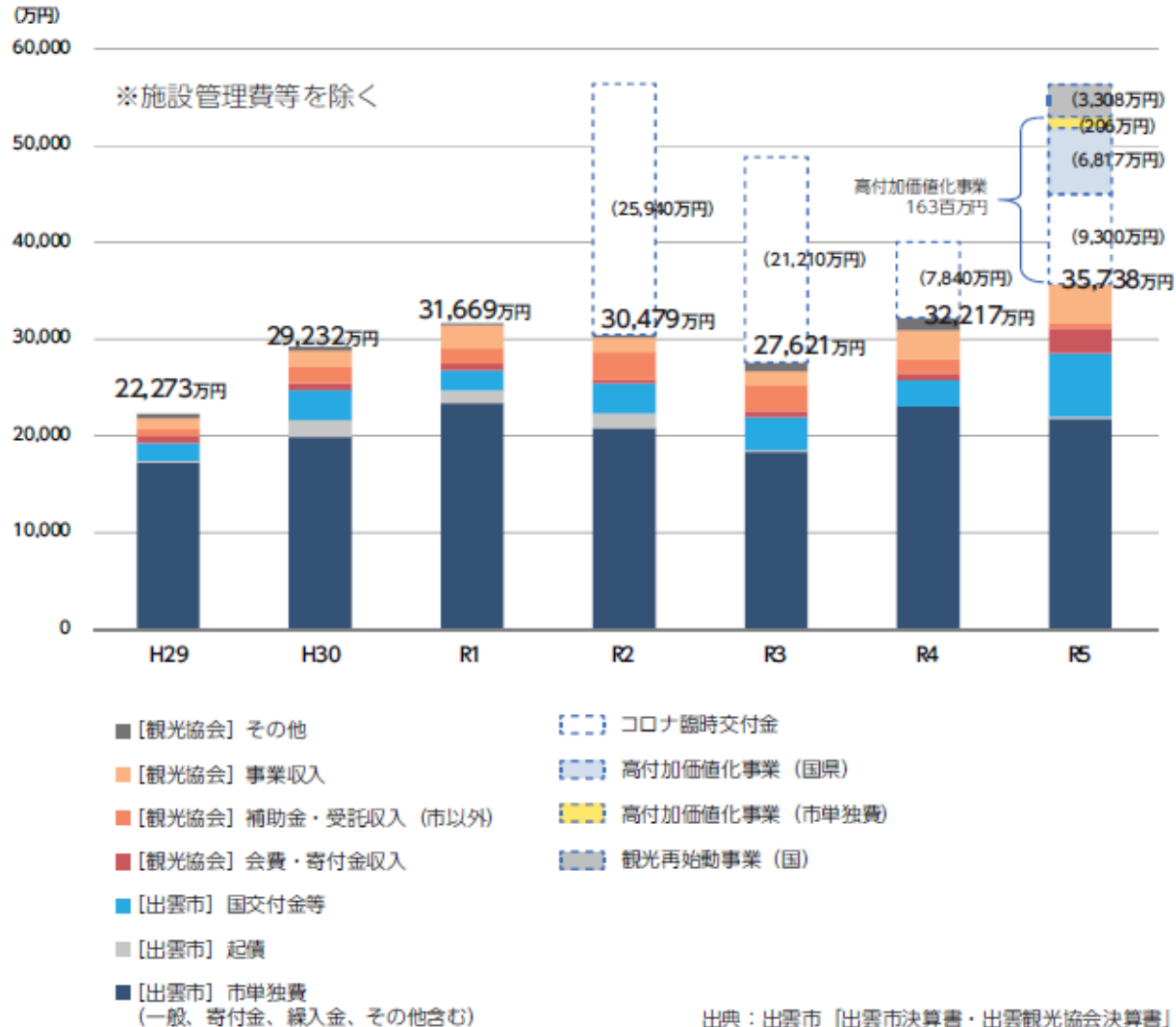
⑥インバウンドの状況

出雲市の外国人宿泊客延べ数は、令和元年(2019)には、改元、出雲ソウル間の連続チャーター便就航等で賑わい、平成21年(2009)の約6倍の11,552人まで増加しました。コロナ禍後、令和5年(2023)には令和元年(2019)の約6割まで回復していますが、宿泊客全体に占める割合は1%未満の状況です。(23頁)



⑦財源

出雲市・観光協会事業費推移（H29～R5）



市と観光協会を合わせた観光振興予算全体（施設管理費等を除く）は、単年度限り等の特別な国補助事業等を除き、概ね3億円程度となっています。

近年、国の交付金等を活用し、予算全体が増加傾向となっていますが、令和8年度以降の交付金等の目途はなく、安定的な財源確保が課題となっています。（27頁）

⑧現状分析

	課題（戦略会議における委員・有識者からの主な意見）
データ活用と戦略	✓データやデジタル技術の活用によるマーケティング力向上やPDCAサイクルの実施 ✓宿泊余力等を分析した上で、各エリアの宿泊増と更なる平準化などの対策を講じること
観光地づくり	【地域と連携した魅力の磨き上げ】 ✓エリアのウリを整理・差別化し、ターゲット設定の上、魅力の磨き上げ・発信を行うこと ✓資源を活かし出雲の良さを伝える体験コンテンツ等の充実、集客力や収益の向上 ✓飲食店の営業時間の観光客ニーズへの対応や、より食文化を楽しんでもらえるようなPR・施策の実施 ✓お土産・名産の魅力向上、PR、購入しやすさの向上 ✓散在する資源のストーリー性あるPRや、周遊ルート・周遊商品の確立等、周遊PRの強化 【守るべき資源の継承】 ✓周辺観光地などの景観、街歩き環境等の整備・保全（街並み、海岸道路等） ✓歴史文化の継承、市民へのインナープロモーション 【受入基盤の充実】 ✓渋滞対策の強化 ✓観光地間の移動手段の充実・利用しやすさの向上、タクシー不足の改善 ✓その他周遊に必要な基盤整備（コインロッカー、ユニバーサル対応など）
誘客	✓出雲の歴史文化的意義の継続的な発信、多様な観光資源の認知度向上 ✓認知や来訪意欲につながる多様なメディアの活用・交通事業者と連携したPR ✓地域主導のデジタルマーケティングの実施（プロモーションを委託業者に任せきりにせずノウハウを取得） ✓周遊の可能性の高い個人客やそのリピーターへの発信力強化 ✓インバウンドへの取組方針の整理・理解醸成
体制	✓専門性・継続性を有する観光地経営の牽引組織の構築 ✓市と観光協会をはじめ関係者の役割分担の明確化、重複や漏れがない施策実施、全体マネジメント、広域連携 ✓観光地域づくり（地域での資源発掘・資源磨きや情報共有・連携強化、事業者支援） ✓観光人材の育成（ガイドや接客力とともに観光事業経営や観光地域づくりに資する人材育成） ✓ビジョンや戦略の明確化による地域合意の形成、巻き込み力の向上による多様な主体の参画 ✓安定的な財源の確保、予算の有効活用

	SWOT分析
強み	✓オンリーワンの歴史文化、出雲のブランド力 ✓豊かな観光資源
弱み	【データ活用と戦略】 ✓データに基づく戦略策定やPDCAサイクルが構築されていない 【観光地づくり】 ✓地域と連携した魅力の磨き上げ ✓守るべき資源の継承・受け入れ基盤が不足 【誘客】 ✓出雲の特別性と周辺観光地の発信力 ✓個人客・リピーター誘致 ✓インバウンドなど新市場への対応方針の明確化 【体制】 ✓観光推進組織の専門性・継続性の確保、地域との協働体制の構築 ✓安定的な財源の確保、有効活用
機会	✓個人客の増加によるニーズの多様化や、少人数向け施設等での機会増加 ✓旅行市場におけるサステナビリティ、歴史文化継承への関心の高まり ✓国策（経済成長・地方創生の切り札）としての地方誘客推進
脅威	✓観光地間の競争激化 ✓人口減少による国内市場の縮小 ✓予期せぬオーバーツーリズム

強み × 機会
固有の観光資源やブランド力を生かせる市場になっている

弱み × 脅威
他の観光地との競争激化に対し戦略・体制が整っていない

重点課題

A

マーケティング強化

B

観光まちづくり

C

誘客・ファン拡大

D

観光地経営体制・人づくり

(28頁)

(2) 「出雲市観光基本計画」における 目指すべき将来像とそのための戦略

①基本理念

(10頁)

基本理念

神々の国、未来へ八雲立つ

私たちは、観光産業を持続可能なまちづくりの原動力とし、
神々の国出雲の文化とともに、豊かな出雲の地を次世代に引き継ぎます。

『古事記』に記される
スサノオノミコトが詠んだとされる
最古の和歌

その八重垣を

八重垣つくる

妻籠^{つまご}みに

出雲八重垣

八雲立つ

【八雲立つに込めた思い】

「八雲立つ」とは、生命力あふれる多くの雲が次々と沸き起こり立ち上る様をあらわした出雲の枕詞ですが、転じて、様々な物事が幾久しく発展する意にも用いられることがあります。

通常「八雲立つ〇〇」と使用されますが、観光まちづくりにより地域全体が盛り上がり、産業や文化など様々な分野へ、そして未来へと発展する躍動感を文末で表現しました。

たくさんの生命力あふれる雲が立ちのぼるこの出雲の地に、雲のように幾重にも垣をめぐらせ、
妻を守り住まわせるための宮をつくろう
ああ、幾重にも幾重にも垣をめぐらして

(意訳提供: 戦略会議委員 錦田剛志氏)

②目指すべき将来像

将来像

観光地経営でなす 住んでよし、訪れてよしの観光まちづくり

周遊滞在型・通年型の観光まちづくりを戦略的に実現し、
住む人・訪れる人双方が出雲の多様な魅力に気づき、楽しんでいます。

Side：住む人

市民がもっと出雲のことを知り、楽しんでいる

当たり前すぎて気付かなかった出雲の価値や、知らなかった魅力を発見し、四季折々に楽しみ、誇りと愛着が高まっています。

観光まちづくりに取り組む人の輪が広がっている

観光まちづくりによる地域の発展を多くの市民・事業者が期待し、様々な形で取り組む人やビジネスの輪が広がっています。

観光地経営の推進力が高まっている

観光を牽引する関係者が共通のビジョンや戦略のもと、観光需要の取り込みによる地域経済の活性化を力強く推進しています。

Side：訪れる人

出雲の多様な魅力を知り、楽しんでいる

“出雲大社がある出雲”だけでない、歴史文化や出雲各地の多様な魅力を多くの人が発見し、四季折々に楽しみ、滞在しています。

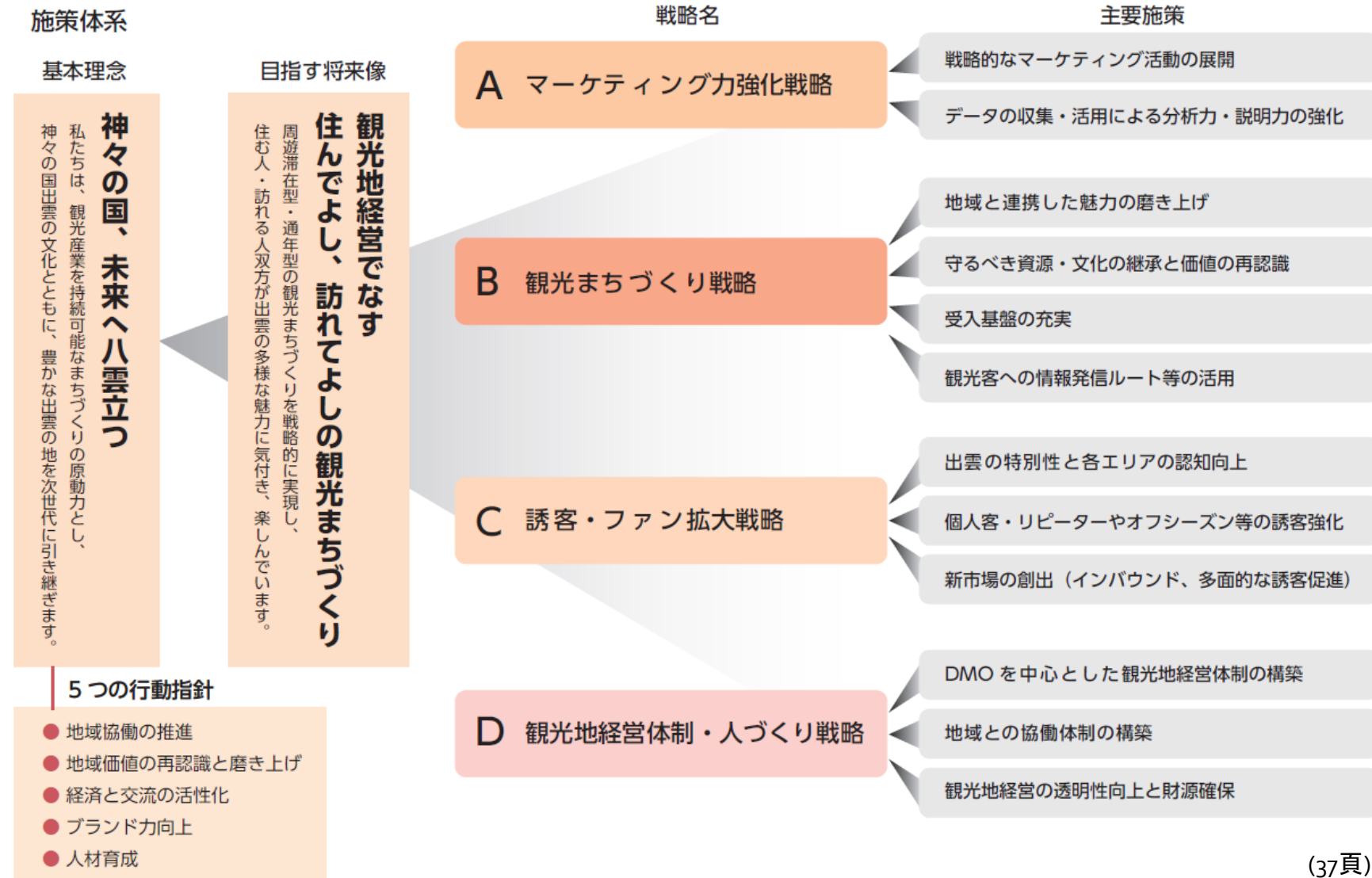
出雲ファンの輪が広がっている

出雲を特別に感じて頂ける方が増え、リピーターや関係人口として地域内外の交流が活性化し、出雲への関心の輪が広がっています。

いつも出雲を楽しむことができる

旅ナカはもちろん、旅マエや旅アトにおいても、出雲のモノやコトに対してアクセスがしやすく、出雲への消費を楽しめる環境が整っています。

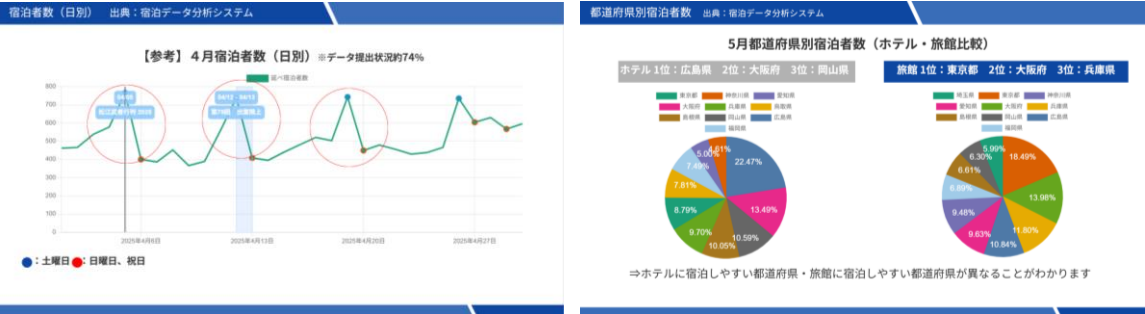
③将来像の実現に向けた戦略



④施策例

滞在価値向上のためのマーケティング力強化

(マーケティングに取り組む人材の育成等、観光協会の組織力強化含む)



滞在時間延長のための体験コンテンツ造成・磨き上げ



(例)
古来から伝わる風習
潮汲み体験

おもてなし環境の整備



二次交通の改善
(グリーンスローモビリティ)



多目的トイレ設置

内外への情報発信強化

出雲市観光基本計画 コンセプトブック (ver.1)
IZUMO Tourism Master Plan 2025-2028 Concept Book

はじまりの地 出雲の物語
The Story of Izumo, the Land of Beginnings ~The Birthplace of Japan's Spiritual Essence~

2025.3 出雲市 IZUMO City

izumo365

出雲ファンクラブ

コンセプトブック制作
(インナープロモーション)

Instagram「Izumo365」 公式LINE「出雲ファンクラブ」

(3)出雲市の財政状況

①出雲市の歳出決算額及び計画額について

(百万円)

120,000

100,000

80,000

60,000

40,000

20,000

0

2018決算 2019決算 2020決算 2021決算 2022決算 2023決算 2024見込 2025計画 2026計画 2027計画 2028計画 2029計画 2030計画

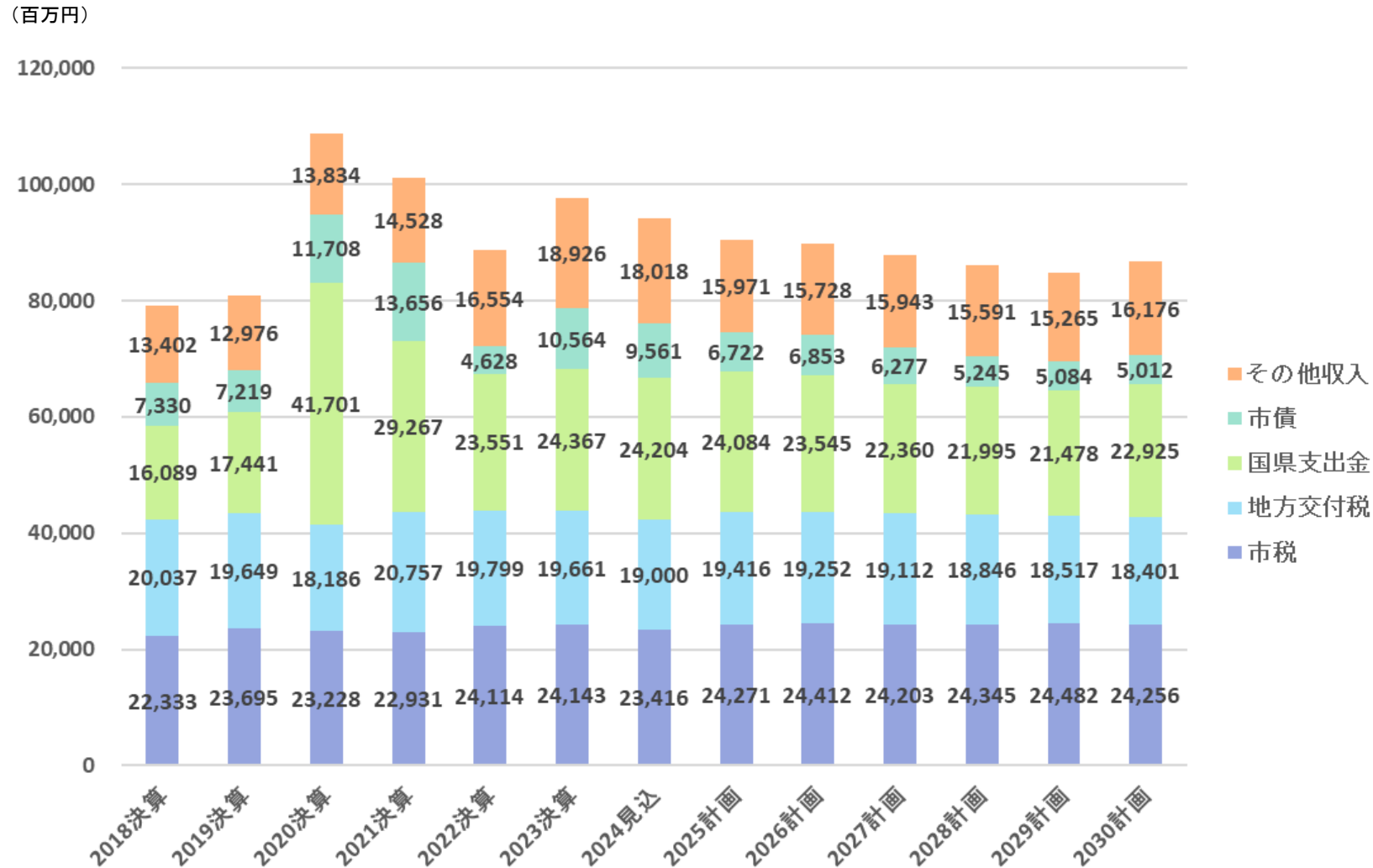
- その他支出
- 繰出金
- 投資的経費
- 公債費
- 扶助費
- 人件費

◎人件費・扶助費等の義務的経費は増加傾向にある。

◎投資的経費については、財政計画の計画期間(2030年まで)後半においても70億円台で推移する見込。

※出雲市財政計画【令和6年(2024)12月策定】及び出雲市一般会計・特別会計歳入歳出決算書から作成

②出雲市の歳入決算額及び計画額について



◎市税収入は微増することが見込まれるが、地方交付税は、交付税措置のある市債償還の進捗などにより減少することが見込まれている。

◎その他収入も大きな増加は見込めていない。

※出雲市財政計画【令和6年（2024）12月策定】
及び出雲市一般会計・特別会計歳入歳出決算書から作成

(4)新たな観光財源の模索

- 令和8年度以降、国の交付金で賄われていた事業については財源の裏付けがなくなり((1)⑦)、また、その他観光財源についても先細りが見込まれる((3)①②)。
 - 他方で、現在は本市固有の観光資源やブランド力を活かせる市場になっており((1)①)、本市観光産業の成長を推進するための戦略に至るまでを記載した計画を策定した((2)①～③)。
- ⇒ 計画の推進のためにも新たな観光財源について検討する必要がある。